

洋書を楽しく読み終える

～「虹読み」のおススメ～

法学部 小坂 敦子

少し前のことですが、本棚からページもすっかり茶けてしまった古い本が出て来ました。タイトルは*The Last Battle*¹で、『ナルニア国物語7(さいごの戦い)』²という題で邦訳も出ています。中を開いてびっくり。私の筆跡で、調べた単語などが書き込んであります。おそらく大学時代に「英語を学ぼう」という志を持って、「読もうとした」のだと思います。

書き込みがあるのは本の半分ぐらいのところまでですから、そのあたりで挫折したようですが、「それを読もうとした」という記憶すら残っていません。

実は、数年前に、『ナルニア国物語』は1巻～7巻を英語で読みました。この時は、本に引き込まれて夢中で読みました。内容の細かい部分はすでに忘れ始めていますが、「この本を読んだ」という記憶すら失うことは、ちょっと考えにくいのです。そう思うと、大学時代に同じ本で挫折したときは、(読もうとした記憶すらないので)読んだ部分もちゃんと理解して読んでいたのか怪しいものです。

皆さんの中にも、英語での読書を楽しみたいと思っている人もいます。「とても楽しい!」と現在の私は実感していますので、皆さんにも、ぜひ、楽しんでいただきたいと思います。

とはいえ、200ページ程度の英語の本をいきなり読み始めるのは、準備なしでマラソンを走ると似ている気がします。体力があれば楽しめるのかもしれませんが、昔の私には無理でした。

では「英語を読むことについての体力のない人」は、どうすればいいのでしょうか? 私は「虹読み」をお勧めしています。これは他校の先生が自分の生徒に薦めている読み方だそうです。話を聞いて「なるほど」と思いました。

虹には複数の色があります。英語を読む時も、自分の読みたい本が200ページ程度あれば、自分の「英語を読むリスト」に、それ以外の複数色(他の本や雑誌、ウェブサイト等)を加えるということです。

本に限って言えば、複数冊同時に「虹読み」するときのポイントは、「難易度や長さの異なるものを選ぶ、最初は易しめの本を沢山入れる」だと思います。特に長めの本を読んでいる時は、隙間時間等で、短い本をどんどん読み終わることをお勧めします。

英語の苦手な人でも楽しく読めそうな本は、愛知大学図書館の多読コーナーを中心に、幅広い段階であります。大人にも楽しめる英語の絵本、児童向けの5分で読み終わるような本、50～80ページぐらいの本、100～200ページの本等々です。その中から、簡単に楽しく読めそうな本のごくごく一部を紹介しようと、例えば、Shel Silversteinの*The Missing Piece*³



は幅広い年代で楽しめる絵本ですし、Peter H. Reynoldsの*The Dot*⁴は教職に興味のある人にもお勧めしたい絵本です。Cynthia RylantやKate DiCamilloという作家名で検索すれば、どちらも児童向けの5～10分程度で読めそうな超簡単シリーズ⁵から、児童文学の章を取った名作⁶まで、幅のある作品が出来ます。

英語の「虹読み」候補の楽しい本は沢山ありますので、ちょっとした時間を活用して、何冊もどんどん読み終わらしましょう。そうするといつのまにか、自分が200ページ以上の英語の本も、スラスラと、しかも日常的に楽しみながら読んでいることに気付くと思います。



1 C. S. Lewis著の*The Last Battle*は1956年にBodley Headより出版。私のもっているのはPenguin Books版です。

2 C. S. Lewis著、瀬田貞二訳、ポーリン・ベインズ絵、岩波書店より1966年に出版。

3 Harper & Rowより1976年に出版。

4 Candlewick Pressより2003年に出版。

5 Cynthia RylantのPoppletonシリーズ(Scholasticより出版)、Kate DiCamilloのMercy Watsonシリーズ(Candlewick Pressより出版)は、どちらも図書館に6冊ずつあり、字も大きいので、英語の苦手な人のウォーミングアップにいかがでしょうか?

6 Cynthia Rylantですと、*Missing May*(Scholasticより1992年に出版)は1993年のニューベリー賞を受賞した名作です。*I had Seen Castles*(Harcourtより1995年に出版)もいい本です。Kate DiCamilloですと、*The Tale of Despereaux: Being the Story of a Mouse, a Princess, Some Soup, and a Spool of Thread*(Candlewickより2003年に出版)が2004年のニューベリー賞を受賞しています。